

新型コロナワクチン副反応のまとめ

Facebook に 6 月 16 日に投稿したものを改変

佐藤 荘太郎

6 月 9 日、第 61 回ワクチン副反応部会資料:新型コロナワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要 (コミナティ筋注 ファイザー株式会社)

上の資料の死亡報告数が 196 と多く、手作業にしる、表計算に入力するにしる、分析することは困難と諦めていた。
資料の最後の 20 ページの「新型コロナワクチン(コミナティ筋注 ファイザー株式会社)接種後死亡事例 死因別集計表」というのがあり、かなり役立つものと思った。一部を下に抜き書きした。(死亡例数は 191。心停止、心突然死、心肺停止をまとめて心臓突然死とした)

これを見ると、このワクチンの副反応死因が、肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンとかなり異なることがわかる。
肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンの場合、肺炎の死亡が多かったと思う。ワクチン接種の負荷で免疫の混乱と低下が生じ感染症にかかり易くなり、最終的に肺炎で死亡する。
コミナティの場合、脳出血、心筋梗塞など、血管障害での死亡が多い。肺炎の死亡は多くない。

心臓障害(68)、神経系障害(38)、硬膜下血腫(2)、血管障害(7)、肺塞栓症(3)、腸間膜動脈閉塞(2)を「大血管傷害」と考えてまとめると 120 例となり、全体の 63%となる。

大血管傷害による原因の死亡は、接種から死亡までの時間が短い。脳梗塞の死亡が少ないことから、大血管傷害といっても「出血」が死因の多くを占めると考えられる。
「心タンポナーデ」という病名の死亡が 5 例ある。心臓は心嚢という袋に包まれているが、このスペースに出血がおこり、圧迫のため心臓が拡がれなくなり死亡にいたる。普通には穿刺のミスで心臓の表面を傷つけたとか、がんの転移でおこる、極めて珍しい病態である。

mRNA で COVI-19 ウイルスのスパイク蛋白が作られるが、この蛋白は流血中に入り、血管内面の ACE2 受容体と結合する。そこが免疫細胞の攻撃を受け、破壊される。スパイクタンパク自体が「血管毒」となり、出血を起こすというこでないだろうか。

通常のコロナウイルス感染症で、大量のスパイク蛋白が血流に入ることはないのではないか。(あっても極めて稀)。それがワクチン接種後に普通に起こっているのではないだろうか。

また、65 歳以上の死亡が 85%とは驚きである。

	総計	40 歳未満		40 歳以上		65 歳未満		65 歳以上	
		男	女	男	女	男	女	男	女
死亡数	191	5	2	7	14	74	89		
心臓障害	68	2	0	3	3	32	28		
心臓突然死	23	2	0	1	0	11	9		
心筋梗塞	6	0	0	0	0	4	2		
神経障害	38	0	2	2	8	9	17		
くも膜下出血	13	0	1	0	6	1	5		
脳出血	11	0	1	0	0	4	6		
脳梗塞	6	0	0	0	0	2	4		
感染症および寄生虫	17	0	0	0	0	10	7		
誤嚥性肺炎	7	0	0	0	0	3	4		
肺炎	5	0	0	0	0	3	2		